

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
<p>III-II. 設計及び工事に係る品質マネジメントシステム</p>		<p>IV. 設計及び工事に係る品質マネジメントシステム</p>	
<p>1. 設計及び工事に係る品質マネジメントシステム                      当社は、原子力発電所の安全を達成・維持・向上させるため、健全な安全文化を育成及び維持するための活動を行う仕組みを含めた、原子炉施設の設計、工事及び検査段階から運転段階に係る保安活動を確実に実施するための品質マネジメントシステムを確立し、「柏崎刈羽原子力発電所原子炉施設保安規定」（以下「保安規定」という。）の品質マネジメントシステム計画（以下「保安規定品質マネジメントシステム計画」という。）に定めている。                      「設計及び工事に係る品質マネジメントシステム」（以下「設工認品質管理計画」という。）は、保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき、設計及び工事に係る具体的な品質管理の方法、組織等の計画された事項を示したものである。</p>		<p>1. 設計及び工事に係る品質マネジメントシステム                      当社は、原子力発電所の安全を達成・維持・向上させるため、健全な安全文化を育成及び維持するための活動を行う仕組みを含めた、原子炉施設の設計、工事及び検査段階から運転段階に係る保安活動を確実に実施するための品質マネジメントシステムを確立し、「<a href="#">柏崎刈羽原子力発電所原子炉施設保安規定</a>」（以下「保安規定」という。）の品質マネジメントシステム計画（以下「保安規定品質マネジメントシステム計画」という。）に定めている。                      「設計及び工事に係る品質マネジメントシステム」（以下「設工認品質管理計画」という。）は、保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき、設計及び工事に係る具体的な品質管理の方法、組織等の計画された事項を示したものである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（育成と維持を名詞の列挙としており、文章の区切りを明確にするために読点を挿入した。）</li> <li>・保安規定の名称の差異</li> </ul>
<p>2. 適用範囲・定義                      2.1 適用範囲                      設工認品質管理計画は、柏崎刈羽原子力発電所第7号機原子炉施設の設計、工事及び検査に係る保安活動に適用する。                      2.2 定義                      設工認品質管理計画における用語の定義は、以下を除き保安規定品質マネジメントシステム計画に従う。                      (1) 実用炉規則                      実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（昭和53年12月28日通商産業省令第77号）をいう。                      (2) 技術基準規則                      実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則（平成25年6月28日原子力規制委員会規則第6号）をいう。                      (3) 実用炉規則別表第二対象設備                      実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（昭和53年12月28日通商産業省令第77号）の別表第二「設備別記載事項」に示された設備をいう。                      (4) 適合性確認対象設備                      設計及び工事の計画（以下「設工認」という。）に基づき、技術基準規則等への適合性を確保するために必要となる設備をいう。</p>		<p>2. 適用範囲・定義                      2.1 適用範囲                      設工認品質管理計画は、<a href="#">柏崎刈羽原子力発電所第7号機</a>原子炉施設の設計、工事及び検査に係る保安活動に適用する。                      2.2 定義                      設工認品質管理計画における用語の定義は、以下を除き保安規定品質マネジメントシステム計画に従う。                      (1) 実用炉規則                      実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（昭和53年12月28日通商産業省令第77号）をいう。                      (2) 技術基準規則                      実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則（平成25年6月28日原子力規制委員会規則第6号）をいう。                      (3) 実用炉規則別表第二対象設備                      実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（昭和53年12月28日通商産業省令第77号）の別表第二「設備別記載事項」に示された設備をいう。                      (4) 適合性確認対象設備                      設計及び工事の計画（以下「設工認」という。）に基づき、技術基準規則等への適合性を確保するために必要となる設備をいう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント名称の差異</li> <li>・表現上の差異（設置変更許可申請書や技術基準規則の解釈も含める意味で「等」を使用した。）</li> </ul>
<p>3. 設計及び工事の計画における設計、工事及び検査に係る品質管理の方法等                      設工認における設計、工事及び検査に係る品質管理は、保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき以下のとおり実施する。</p>		<p>3. <a href="#">設計及び工事の計画</a>における設計、工事及び検査に係る品質管理の方法等                      設工認における設計、工事及び検査に係る品質管理は、保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき以下のとおり実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（より適切な表現で記載した。以下同じ。）</li> </ul>
<p>3.1 設計、工事及び検査に係る組織（組織内外の相互関係及び情報伝達含む）                      設計、工事及び検査は、本社組織及び発電所組織で構成する体制で実施する。                      設計、工事及び検査に係る組織は、担当する設備に関する設計、工事及び検査について責任と権限を持つ。</p>		<p>3.1 設計、工事及び検査に係る組織（組織内外の相互関係及び情報伝達含む）                      設計、工事及び検査は、<a href="#">本社</a>組織及び発電所組織で構成する体制で実施する。                      設計、工事及び検査に係る組織は、担当する設備に関する設計、工事及び検査について責任と権限を持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織体制の差異</li> </ul>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第7号機と大飯発電所第3号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、当社の機密事項に属するため、又は他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
<p>3.2 設工認における設計、工事及び検査の各段階とそのレビュー</p> <p>3.2.1 設計及び工事のグレード分けの適用 設計及び工事のグレード分けは、原子炉施設の安全上の重要性に応じて以下のとおり行う。</p> <p>(1) 設計管理におけるグレード分け 設計管理におけるグレード分けは、「発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針」に基づく安全上の機能別重要度と発電への影響度に応じて設定した重要度区分、並びに重大事故等対処設備においては当該設備の機能の重要性を踏まえ、設計管理区分を設定しグレード分けを実施する。</p> <p>(2) 調達管理におけるグレード分け 調達管理におけるグレード分けは、設計管理区分、保全重要度等を踏まえ、品質管理グレードを設定しグレード分けを実施する。</p> <p>ただし、本設工認における設計は、新規制基準施行以前から設置している設備並びに工事を継続又は完了している設備の設計実績等を用いた技術基準規則等への適合性を確保するために必要な設備の設計である。</p> <p>したがって、本設工認の設計は、設計及び工事のグレード分けによらず、全ての適合性確認対象設備を、「3.3 設計に係る品質管理の方法」に示す設計で管理する。</p> <p>なお、「3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）」以降の段階で新たに設計及び工事を実施する場合は、設計及び工事のグレード分けの考え方を適用し、管理を実施する。</p>		<p>3.2 設工認における設計、工事及び検査の各段階とそのレビュー</p> <p>3.2.1 設計及び工事のグレード分けの適用 <u>設計及び工事のグレード分けは、原子炉施設の安全上の重要性に応じて以下のとおり行う。</u></p> <p><u>(1) 設計管理におけるグレード分け</u> <u>設計管理におけるグレード分けは、「発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針」に基づく安全上の機能別重要度と発電への影響度に応じて設定した重要度区分、並びに重大事故等対処設備においては当該設備の機能の重要性を踏まえ、設計管理区分を設定しグレード分けを実施する。</u></p> <p><u>(2) 調達管理におけるグレード分け</u> <u>調達管理におけるグレード分けは、設計管理区分、保全重要度等を踏まえ、品質管理グレードを設定しグレード分けを実施する。</u></p> <p><u>設工認における設計は、設工認申請（届出）時点で設置されている設備を含めた設工認対象設備に対し、第1表に示す「設工認における設計、工事及び検査の各段階」に従って技術基準規則等の要求事項への適合性を確保するために実施する設備の設計である。</u></p> <p><u>ただし、本設工認の設計は、設計及び工事のグレード分けによらず、全ての適合性確認対象設備を、「3.3 設計に係る品質管理の方法」に示す設計で管理する。</u></p> <p><u>なお、「3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）」以降の段階で新たに設計及び工事を実施する場合は、設計及び工事のグレード分けの考え方を適用し、管理を実施する。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（保安規定の記載に合わせた表記、以下同じ。）</li> <li>・表現上の差異（グレード分けの対象をより明確に記載した。）</li> <li>・設計管理グレード分けの考え方の差異（詳細は設計及び工事に係る品質マネジメントシステムに関する説明書の添付2に記載した。）</li> <li>・調達管理グレード分けの考え方の差異（詳細は設計及び工事に係る品質マネジメントシステムに関する説明書の添付2に記載した。）</li> </ul>
<p>3.2.2 設計、工事及び検査の各段階とそのレビュー 設工認のうち、実用炉規則別表第二対象設備に対する設計、工事及び検査の各段階を第1表に示す。 設工認における必要な設計、工事及び検査の流れを第1図に示す。</p>		<p>3.2.2 設計、工事及び検査の各段階とそのレビュー 設工認のうち、<u>実用炉規則別表第二対象設備に対する設計、工事及び検査の各段階を第1表に示す。</u> <u>設工認における必要な設計、工事及び検査の流れを第1図に示す。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異</li> </ul>

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
<p>(1) 実用炉規則別表第二対象設備に対する管理 組織は、設計、工事及び検査の各段階におけるレビューを、第1表に示す段階において実施するとともに、記録を管理する。 このレビューについては、本社組織及び発電所組織で当該設備の設計に関する専門家を含めて実施する。</p> <p>なお、実用炉規則別表第二対象設備のうち、設工認申請（届出）が不要な工事を行う場合は、設工認品質管理計画のうち、必要な事項を適用して設計、工事及び検査を実施し、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを使用前事業者検査により確認する。</p> <p>(2) 主要な耐圧部の溶接部に対する管理 設工認のうち、主要な耐圧部の溶接部に対する必要な検査は、「3.4 工事に係る品質管理の方法」、「3.5 使用前事業者検査の方法」及び「3.6 設工認における調達管理の方法」に示す管理（第1表における「3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）」～「3.6 設工認における調達管理の方法」）のうち、必要な事項を適用して検査を実施し、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを使用前事業者検査により確認する。</p>		<p>(1) <u>実用炉規則別表第二対象設備に対する管理</u> <u>組織は、設計、工事及び検査の各段階における</u>レビューを、<u>第1表</u>に示す<u>段階において</u>実施するとともに、記録を管理する。 <u>このレビューについては</u>、本社組織及び発電所組織で当該設備の設計に関する専門家を含めて実施する。</p> <p>なお、実用炉規則別表第二対象設備のうち、設工認申請（届出）が不要な工事を行う場合は、設工認品質管理計画のうち、必要な事項を適用して設計、工事及び検査を実施し、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを<u>使用前事業者検査により</u>確認する。</p> <p>(2) <u>主要な耐圧部の溶接部に対する管理</u> 設工認のうち、主要な耐圧部の溶接部に対する必要な検査は、「3.4 工事に係る品質管理の方法」、「3.5 使用前事業者検査の方法」及び「3.6 設工認における調達管理の方法」に示す管理（第1表における<u>「3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）」</u>～「3.6 設工認における調達管理の方法」）のうち、必要な事項を適用して検査を実施し、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを<u>使用前事業者検査により</u>確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異 （記載位置をなお書きの前にして小項目を立てて記載した。また、工事設計段階における（設計3）のレビューがあるため「設計の各段階」としていない。）</li> <li>・表現上の差異 （確認方法を明確に記載した。）</li> <li>・表現上の差異 （溶接管理について小項目を立てて記載した。）</li> <li>・主要な耐圧部の溶接部に対する管理方法の相違 （主要な耐圧部の溶接部に対する管理は、社内マニュアルに基づき「3.4.1 設工認に基づく設備の附帯的な設計の実施（設計3）」以降で対象設備（部位）を抽出、管理する考え方による。）</li> <li>・表現上の差異 （確認方法を明確に記載した。）</li> </ul>

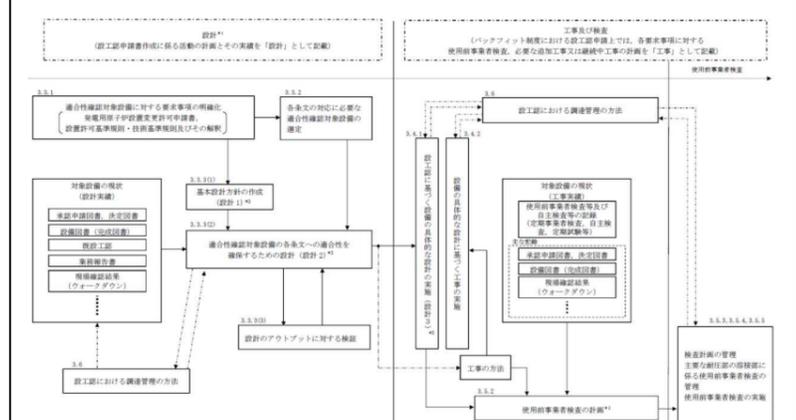
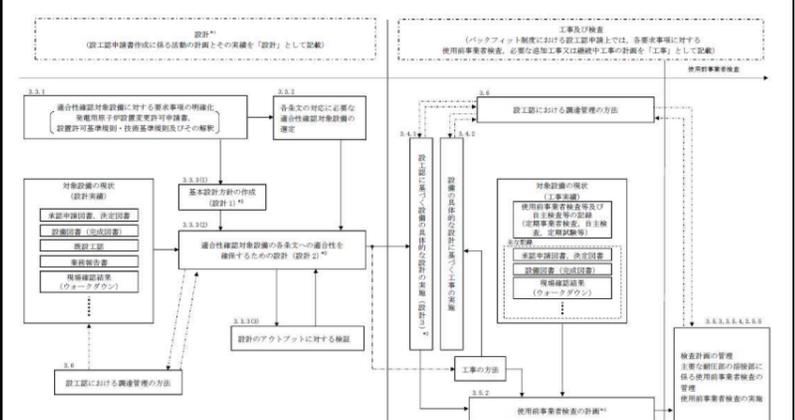
先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】				大飯発電所第3号機				柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】				大飯発電所第3号機との比較			
第1表 設工認における設計、工事及び検査の各段階								第1表 設工認における設計、工事及び検査の各段階							
各段階		保安規定品質マネジメントシステム計画の対応項目		概要				各段階		保安規定品質マネジメントシステム計画の対応項目		概要			
設計	3.3	設計に係る品質管理の方法	7.3.1 設計・開発の計画	適合性を確保するために必要な設計を実施するための計画		3.3	設計に係る品質管理の方法	7.3.1 設計・開発の計画	適合性を確保するために必要な設計を実施するための計画		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（保安規定品質マネジメントシステム計画の対応項目の名称の差異）</li> <li>・表現上の差異（検証の内容をより具体的に表現した。）</li> <li>・表現上の差異（「具体的な設計」の段階であることをより明確に表現した。以下同じ。）</li> </ul>				
	3.3.1	適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化	7.3.2 設計・開発へのインプット	設計に必要な技術基準規則等の要求事項の明確化		3.3.1	適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化	7.3.2 設計・開発へのインプット	設計に必要な技術基準規則等の要求事項の明確化						
	3.3.2	各条文の対応に必要な適合性確認対象設備の選定		技術基準規則等に対応するための設備・運用の抽出		3.3.2	各条文の対応に必要な適合性確認対象設備の選定		技術基準規則等に対応するための設備・運用の抽出						
	3.3.3(1)*	基本設計方針の作成（設計1）	7.3.3 設計・開発からのアウトプット	要求事項を満足する基本設計方針の作成		3.3.3(1)*	基本設計方針の作成（設計1）	7.3.3 設計・開発からのアウトプット	要求事項を満足する基本設計方針の作成						
	3.3.3(2)*	適合性確認対象設備の各条文への適合性を確保するための設計（設計2）	7.3.3 設計・開発からのアウトプット	適合性確認対象設備に必要な設計の実施		3.3.3(2)*	適合性確認対象設備の各条文への適合性を確保するための設計（設計2）	7.3.3 設計・開発からのアウトプット	適合性確認対象設備に必要な設計の実施						
	3.3.3(3)	設計のアウトプットに対する検証	7.3.5 設計・開発の検証	技術基準規則への適合性を確保するために必要な設計の妥当性の確認		3.3.3(3)	設計のアウトプットに対する検証	7.3.5 設計・開発の検証	技術基準規則への適合性を確保するために必要な設計の妥当性の確認						
	3.3.4*	設計における変更	7.3.7 設計・開発の変更管理	設計対象の追加や変更時の対応		3.3.4*	設計における変更	7.3.7 設計・開発の変更管理	設計対象の追加や変更時の対応						
工事及び検査	3.4.1*	設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）	7.3.3 設計・開発からのアウトプット 7.3.5 設計・開発の検証	設工認を実現するための具体的な設計		3.4.1*	設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）	7.3.3 設計・開発からのアウトプット 7.3.5 設計・開発の検証	設工認を実現するための具体的な設計		<ul style="list-style-type: none"> <li>保安規定品質マネジメントシステム計画の対応項目の差異（「3.5.2 使用前事業者検査の計画」には、使用前事業者検査の業務を実施するに当たっての検査計画立案に関する内容を記載していることから、保安規定品質マネジメントシステム計画の対応項目に「7.1 業務の計画」を追記した。）</li> </ul>				
	3.4.2	設備の具体的な設計に基づく工事の実施	—	適合性確認対象設備の工事の実施		3.4.2	設備の具体的な設計に基づく工事の実施	—	適合性確認対象設備の工事の実施						
	3.5.1	使用前事業者検査での確認事項	—	適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していること		3.5.1	使用前事業者検査での確認事項	—	適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していること						
	3.5.2	使用前事業者検査の計画	7.1 業務の計画 7.3.6 設計・開発の妥当性確認	適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認する計画と方法の決定		3.5.2	使用前事業者検査の計画	7.1 業務の計画 7.3.6 設計・開発の妥当性確認	適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認する計画と方法の決定						
	3.5.3	検査計画の管理	—	使用前事業者検査を実施する際の工程管理		3.5.3	検査計画の管理	—	使用前事業者検査を実施する際の工程管理						
	3.5.4	主要な耐圧部の溶接部に係る使用前事業者検査の管理	—	主要な耐圧部の溶接部に係る使用前事業者検査を実施する際の工程管理		3.5.4	主要な耐圧部の溶接部に係る使用前事業者検査の管理	—	主要な耐圧部の溶接部に係る使用前事業者検査を実施する際の工程管理						
	3.5.5	使用前事業者検査の実施	8.2.4 機器等の検査等	認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認		3.5.5	使用前事業者検査の実施	8.2.4 機器等の検査等	認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認						
調達	3.6	設工認における調達管理の方法	7.4 調達 8.2.4 機器等の検査等	適合性確認に必要な継続中工事及び追加工事の検査を含めた調達管理		3.6	設工認における調達管理の方法	7.4 調達 8.2.4 機器等の検査等	適合性確認に必要な、設計、工事及び検査に係る調達管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（レビューについてより具体的に記載した。）</li> </ul>				
注記*：「3.2.2 設計、工事及び検査の各段階とそのレビュー」でいう、保安規定品質マネジメントシステム計画の「7.3.4 設計・開発のレビュー」対応項目				注記*：「3.2.2 設計、工事及び検査の各段階とそのレビュー」でいう、保安規定品質マネジメントシステム計画の「7.3.4 設計・開発のレビュー」対応項目											

青字：柏崎刈羽原子力発電所第7号機と大飯発電所第3号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、当社の機密事項に属するため、又は他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

<p>柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】</p>	<p>大飯発電所第3号機</p>	<p>柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】</p>	<p>大飯発電所第3号機との比較</p>
<p>第1図 設工認として必要な設計、工事及び検査の流れ</p>  <p>図1: 設工認として必要な設計、工事及び検査の流れ</p> <p>注記①: パックフィット制度における設工認申請上の「設計」とは、要求事項を満足した設備とするための基本設計方針を作成（設計1）し、既に設置されている設備の状況も念頭に置きながら、適合性確認対象設備を各条文中に適合させるための設計（設計2）を行う業務をいう。また、この設計の結果を基に、設工認として申請に必要な範囲について、設工認申請書にまとめられる。</p> <p>注記②: 各条文中に適合性確認対象設備が設工認に適合していることを確認するための検査方法（代替確認の考え方を含む）の決定とその実施を使用前事業者検査の計画として行う。</p> <p>注記③: 品質マネジメントシステム計画の「7.3.3 設計・開発からのアウトプット」、「7.3.4 設計・開発のレビュー」対応項目</p>		<p>第1図 設工認として必要な設計、工事及び検査の流れ</p>  <p>図1: 設工認として必要な設計、工事及び検査の流れ</p> <p>注記①: パックフィット制度における設工認申請上の「設計」とは、要求事項を満足した設備とするための基本設計方針を作成（設計1）し、既に設置されている設備の状況を念頭に置きながら、適合性確認対象設備を各条文中に適合させるための設計（設計2）を行う業務をいう。また、この設計の結果を基に、設工認として申請に必要な範囲について、設工認申請書にまとめられる。</p> <p>注記②: 各条文中に適合性確認対象設備が設工認に適合していることを確認するための検査方法（代替確認の考え方を含む）の決定とその実施を使用前事業者検査の計画として行う。</p> <p>注記③: 品質マネジメントシステム計画の「7.3.3 設計・開発からのアウトプット」、「7.3.4 設計・開発のレビュー」対応項目</p>	<p>「3.3.3(3) 設計のアウトプットに対する検証」の考え方の差異                  （（設計2）で実施した詳細設計が、要求事項に対して適切に実施されているかを検証する段階で、検証結果は良否に関わらず（設計2）にフィードバックされることを表現した。）</p> <p>「工事の方法」へのインプットの差異                  （「3.3.3(3) 設計のアウトプットに対する検証」の考え方を考慮し、「工事の方法」へインプットする業務の流れを（設計2）が起点となるように表現した。）</p>
<p>3.3 設計に係る品質管理の方法</p> <p>3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化</p> <p>組織は、設工認における技術基準規則等への適合性を確保するために必要な要求事項を明確にする。</p>		<p>3.3 設計に係る品質管理の方法</p> <p>3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化</p> <p>組織は、設工認における技術基準規則等への適合性を確保するために必要な要求事項を明確にする。</p>	<p>・組織体制の差異</p>
<p>3.3.2 各条文の対応に必要な適合性確認対象設備の選定</p> <p>組織は、設工認に関連する工事において、追加・変更となる適合性確認対象設備（運用を含む。）のうち、対象となる適合性確認対象設備（運用を含む。）の要求事項への適合性を確保するために、実際に使用する際の系統・構成で必要となる設備・運用を含めて、適合性確認対象設備として抽出する。</p>		<p>3.3.2 各条文の対応に必要な適合性確認対象設備の選定</p> <p>組織は、設工認に関連する工事において、追加・変更となる適合性確認対象設備（運用を含む。）のうち、対象となる適合性確認対象設備（運用を含む。）の要求事項への適合性を確保するために、実際に使用する際の系統・構成で必要となる設備・運用を含めて、適合性確認対象設備として抽出する。</p>	<p>・表現上の差異</p>
<p>3.3.3 設工認における設計及び設計のアウトプットに対する検証</p> <p>組織は、適合性確認対象設備の技術基準規則等への適合性を確保するための設計を以下のとおり実施する。</p>		<p>3.3.3 設工認における設計及び設計のアウトプットに対する検証</p> <p>組織は、適合性確認対象設備の技術基準規則等への適合性を確保するための設計を以下のとおり実施する。</p>	<p>・組織体制の差異</p>
<p>(1) 基本設計方針の作成（設計1）</p> <p>「設計1」として、技術基準規則等の適合性確認対象設備に必要な要求事項を基に、必要な設計を漏れなく実施するための基本設計方針を明確化する。</p>		<p>(1) 基本設計方針の作成（設計1）</p> <p>「設計1」として、技術基準規則等の適合性確認対象設備に必要な要求事項を基に、必要な設計を漏れなく実施するための基本設計方針を明確化する。</p>	
<p>(2) 適合性確認対象設備の各条文への適合性を確保するための設計（設計2）</p> <p>「設計2」として、「設計1」で明確にした基本設計方針を用いて適合性確認対象設備に必要な詳細設計を実施する。</p>		<p>(2) 適合性確認対象設備の各条文への適合性を確保するための設計（設計2）</p> <p>「設計2」として、「設計1」で明確にした基本設計方針を用いて適合性確認対象設備に必要な詳細設計を実施する。</p>	
<p>なお、詳細設計の品質を確保する上で重要な活動となる「調達による解析」及び「手計算による自社解析」について、個別に管理事項を計画し信頼性を確保する。</p>		<p>なお、詳細設計の品質を確保する上で重要な活動となる「調達による解析」及び「手計算による自社解析」について、個別に管理事項を計画し信頼性を確保する。</p>	

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
(3) 設計のアウトプットに対する検証 組織は、設計1及び設計2の結果について、原設計者以外の力量を有する者に検証を実施させる。		(3) 設計のアウトプットに対する検証 組織は、 <u>「設計1」及び「設計2」の結果について、原設計者以外の力量を有する者に検証を実施させる。</u>	※(2)に合わせ「」を追記 ・検証実施者の差異 (当社では、検証を原設計者以外が実施することとしている。)
3.3.4 設計における変更 組織は、設計の変更が必要となった場合、「3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化」～「3.3.3 設工認における設計及び設計のアウトプットに対する検証」の各設計結果のうち、影響を受けるものについて必要な設計を実施し、影響を受けた段階以降の設計結果を必要に応じ修正する。		3.3.4 設計における変更 組織は、設計の変更が必要となった場合、 <u>「3.3.1 適合性確認対象設備に対する要求事項の明確化」～「3.3.3 設工認における設計及び設計のアウトプットに対する検証」の各設計結果のうち、影響を受けるものについて必要な設計を実施し、影響を受けた段階以降の設計結果を必要に応じ修正する。</u>	・記載の充実化 (該当する設計段階を詳細に記載した。)
3.4 工事に係る品質管理の方法 組織は、工事段階において、設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）、その結果を反映した設備を導入するために必要な工事を以下のとおり実施する。 また、これらの活動を調達する場合は、「3.6 設工認における調達管理の方法」を適用して実施する。		3.4 工事に係る品質管理の方法 組織は、工事段階において、設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）、その結果を反映した設備を導入するために必要な工事を以下のとおり実施する。 また、これらの活動を調達する場合は、「3.6 設工認における調達管理の方法」を適用して実施する。	・表現上の差異 (（設計3）について第1図の記載に合わせた。)
3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3） 組織は、工事段階において、設工認を実現するための設備の具体的な設計（設計3）を実施する。		3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3） 組織は、工事段階において、設工認を実現するための設備の具体的な設計（設計3）を実施する。	・表現上の差異 (設工認品質管理計画には、骨格を記載することで統一を図っている。設計及び工事に係る品質マネジメントシステムに関する説明書の「3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）」にて、場合分けし記載しているため、記載していない。)
3.4.2 設備の具体的な設計に基づく工事の実施 組織は、設工認に基づく設備を設置するための工事を、「工事の方法」に記載された工事の手順並びに「3.6 設工認における調達管理の方法」に従い実施する。 ただし、適合性確認対象設備のうち、新規制基準施行以前に設置している設備、設置を完了し調達製品の検証段階の設備、既に工事を着手し工事を継続している設備については、「3.5 使用前事業者検査の方法」から実施する。		3.4.2 設備の具体的な設計に基づく工事の実施 組織は、設工認に基づく設備を設置するための工事を、「工事の方法」に記載された工事の手順並びに「3.6 設工認における調達管理の方法」に従い実施する。 <u>なお、設工認に基づく設備のうち、新たな工事を伴わない設工認申請（届出）時点で設置されている設備がある場合には、「3.5 使用前事業者検査の方法」から実施する。</u>	・記載の充実化 (新たな工事を伴わない既設設備がある場合は検査から実施することを記載した。)
3.5 使用前事業者検査の方法 使用前事業者検査は、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認するため、保安規定に基づき使用前事業者検査を計画し、工事を主管する箇所からの独立性を確保した検査体制の下、実施する。		3.5 使用前事業者検査の方法 使用前事業者検査は、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認するため、保安規定に基づき使用前事業者検査を計画し、 <u>工事を主管する</u> 箇所からの独立性を確保した検査体制の下、実施する。	・表現上の差異 (より適切な記載とした。)
3.5.1 使用前事業者検査での確認事項 使用前事業者検査では、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基		3.5.1 使用前事業者検査での確認事項 使用前事業者検査では、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基	

青字：柏崎刈羽原子力発電所第7号機と大飯発電所第3号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、当社の機密事項に属するため、又は他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
<p>準規則に適合していることを確認するために以下の項目について検査を実施する。</p> <p>① 実設備の仕様の適合性確認</p> <p>② 実施した工事が、「3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）」及び「3.4.2 設備の具体的な設計に基づく工事の実施」に記載したプロセス並びに「工事の方法」とおり行われていること。</p> <p>これらの項目のうち、①を第2表に示す検査として、②を品質マネジメントシステムに係る検査（以下「QA検査」という。）として実施する。</p> <p>また、QA検査では上記②に加え、上記①のうち工事を主管する箇所（供給者を含む。）が実施する検査の信頼性の確認を行い、設工認に基づく検査の信頼性を確保する。</p>		<p>準規則に適合していることを確認するために以下の項目について検査を実施する。</p> <p>① 実設備の仕様の適合性確認</p> <p>② 実施した工事が、「3.4.1 設工認に基づく設備の具体的な設計の実施（設計3）」及び「3.4.2 設備の具体的な設計に基づく工事の実施」に記載したプロセス並びに「工事の方法」とおり行われていること。</p> <p>これらの項目のうち、①を第2表に示す検査として、②を品質マネジメントシステムに係る検査（以下「QA検査」という。）として実施する。</p> <p>また、QA検査では上記②に加え、上記①のうち工事を主管する箇所（供給者を含む。）が実施する検査の信頼性の確認を行い、設工認に基づく検査の信頼性を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査プロセスの差異。 （「3.5.4 主要な耐圧部の溶接部に係る使用前事業者検査の管理」は、工事を主管する箇所で管理せず、検査を担当する箇所が管理を行う。）</li> <li>表現上の差異</li> </ul>
<p>3.5.2 使用前事業者検査の計画</p> <p>組織は、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認するため、使用前事業者検査を計画する。</p> <p>使用前事業者検査は、「工事の方法」に記載された使用前事業者検査の項目及び方法並びに第2表に定める要求種別ごとに確認項目、確認視点及び主な検査項目を基に計画を策定する。</p> <p>適合性確認対象設備のうち、技術基準規則上の措置（運用）に必要な設備についても、使用前事業者検査を計画する。</p> <p>個々に実施する使用前事業者検査に加えてプラント運転に影響を及ぼしていないことを総合的に確認するため、定格熱出力一定運転時の主要パラメータを確認することによる使用前事業者検査（負荷検査）の計画を必要に応じて策定する。</p>		<p>3.5.2 使用前事業者検査の計画</p> <p>組織は、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認するため、使用前事業者検査を計画する。</p> <p>使用前事業者検査は、「工事の方法」に記載された使用前事業者検査の項目及び方法並びに第2表に定める要求種別ごとに確認項目、確認視点及び主な検査項目を基に計画を策定する。</p> <p>適合性確認対象設備のうち、技術基準規則上の措置（運用）に必要な設備についても、使用前事業者検査を計画する。</p> <p>個々に実施する使用前事業者検査に加えてプラント運転に影響を及ぼしていないことを総合的に確認するため、定格熱出力一定運転時の主要パラメータを確認することによる使用前事業者検査（負荷検査）の計画を必要に応じて策定する。</p>	
<p>また、使用前事業者検査の実施に先立ち、設計結果に関する具体的な検査概要及び判定基準を使用前事業者検査の方法として明確にする。</p>		<p>また、使用前事業者検査の実施に先立ち、設計結果に関する具体的な検査概要及び判定基準を使用前事業者検査の方法として明確にする。</p>	
<p>3.5.3 検査計画の管理</p> <p>組織は、使用前事業者検査を適切な段階で実施するため、関係箇所と調整のうえ使用前事業者検査工程表を作成する。</p> <p>使用前事業者検査の実施時期及び使用前事業者検査が確実に行われることを適切に管理する。</p>		<p>3.5.3 検査計画の管理</p> <p>組織は、使用前事業者検査を適切な段階で実施するため、関係箇所と調整のうえ使用前事業者検査工程表を作成する。</p> <p>使用前事業者検査の実施時期及び使用前事業者検査が確実に行われることを適切に管理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現上の差異 （資料名称の差異）</li> </ul>
<p>3.5.4 主要な耐圧部の溶接部に係る使用前事業者検査の管理</p> <p>組織は、溶接が特殊工程であることを踏まえ、工程管理等の計画を策定し、溶接施工工場におけるプロセスの適切性の確認及び監視を行う。</p>		<p>3.5.4 主要な耐圧部の溶接部に係る使用前事業者検査の管理</p> <p>組織は、溶接が特殊工程であることを踏まえ、工程管理等の計画を策定し、溶接施工工場におけるプロセスの適切性の確認及び監視を行う。</p>	

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
<p>また、溶接継手に対する要求事項は、溶接部詳細一覧表（溶接方法、溶接材料、溶接施工法、熱処理条件、検査項目等）により管理し、これに係る関連図書を含め、業務の実施に当たって必要な図書を溶接施工工場に提出させ、それを審査、承認し、必要な管理を実施する。</p>		<p>また、溶接継手に対する要求事項は、溶接部詳細一覧表（溶接方法、溶接材料、溶接施工法、熱処理条件、検査項目等）により管理し、これに係る関連図書を含め、業務の実施に当たって必要な図書を溶接施工工場に提出させ、それを審査、承認し、必要な管理を実施する。</p>	
<p>3.5.5 使用前事業者検査の実施 使用前事業者検査は、検査要領書の作成、体制の確立を行い実施する。</p>		<p>3.5.5 使用前事業者検査の実施 使用前事業者検査は、検査要領書の作成、体制の確立を行い実施する。</p>	
<p>(1) 使用前事業者検査に係る要員の力量確保及び教育・訓練 使用前事業者検査に従事する者は、あらかじめ教育・訓練を受講し、検査に必要な力量を有する者とする。</p>		<p><u>(1) 使用前事業者検査に係る要員の力量確保及び教育・訓練 使用前事業者検査に従事する者は、あらかじめ教育・訓練を受講し、検査に必要な力量を有する者とする。</u></p>	<p>・記載の充実化 (使用前事業者検査等の独立性の確保が品管基準規則で要求されたことから、検査に係る要員の力量に関する記載を追記。(品質管理基準規則の解釈に規定あり。))</p>
<p>(2) 使用前事業者検査の独立性確保 使用前事業者検査は、組織的独立を確保して実施する。</p>		<p>(2) 使用前事業者検査の独立性確保 使用前事業者検査は、組織的独立を確保して実施する。</p>	
<p>(3) 使用前事業者検査の体制 使用前事業者検査の体制は、検査要領書で明確にする。</p>		<p>(3) 使用前事業者検査の体制 使用前事業者検査の体制は、検査要領書で明確にする。</p>	
<p>(4) 使用前事業者検査の検査要領書の作成 組織は、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認するため、「3.5.2 使用前事業者検査の計画」で決定した確認方法を基に、使用前事業者検査を実施するための検査要領書を作成する。  実施する検査が代替検査となる場合は、代替による使用前事業者検査の方法を決定する。</p>		<p>(4) 使用前事業者検査の検査要領書の作成 <u>組織</u>は、適合性確認対象設備が、認可された設工認に記載された仕様及びプロセスのとおりであること、技術基準規則に適合していることを確認するため、「3.5.2 使用前事業者検査の計画」で決定した確認方法を基に、使用前事業者検査を実施するための検査要領書を作成する。  実施する検査が代替検査となる場合は、代替による使用前事業者検査の方法を決定する。</p>	<p>・表現上の差異 (「作成」には制定することの意味も含めた記載とした。)</p>
<p>(3) 使用前事業者検査の実施 検査要領書に基づき、確立された検査体制の下で、使用前事業者検査を実施する。</p>		<p>(5) 使用前事業者検査の実施 <u>組織</u>は、検査要領書に基づき、確立された検査体制の<u>下</u>で、使用前事業者検査を実施する。</p>	

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】				大飯発電所第3号機				柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】				大飯発電所第3号機との比較											
第2表 要求種別に対する確認項目及び確認視点								第2表 要求種別に対する確認項目及び確認視点								<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異 (要求種別の考え方の差異)</li> </ul>							
要求種別		確認項目		確認視点		主な検査項目		要求種別		確認項目		確認視点		主な検査項目									
設備	設計要求	設置要求	名称、取付箇所、個数、設置状態、保管状態	設計要求どおりの名称、取付箇所、個数で設置されていることを確認する。	・据付検査 ・状態確認検査 ・外観検査	設置要求	名称、取付箇所、個数、設置状態、保管状態	設計要求どおりの名称、取付箇所、個数で設置されていることを確認する。	・据付検査 ・状態確認検査 ・外観検査														
		系統構成	系統構成、系統隔離、可搬設備の接続性	実際に使用できる系統構成になっていることを確認する。	・機能・性能検査	系統構成	系統構成、系統隔離、可搬設備の接続性	実際に使用できる系統構成になっていることを確認する。	・機能・性能検査														
		機能要求	容量、揚程等の仕様（要目表）	要目表の記載どおりであることを確認する。	・材料検査 ・寸法検査 ・建物・構築物構造検査	容量、揚程等の仕様（要目表）	要目表の記載どおりであることを確認する。	・材料検査 ・寸法検査 ・建物・構築物構造検査															
	上記以外の所要の機能要求事項		目的とする機能・性能が発揮できることを確認する。	・外観検査 ・据付検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 ・機能・性能検査 ・特性検査 ・状態確認検査	上記以外の所要の機能要求事項	目的とする機能・性能が発揮できることを確認する。	・外観検査 ・据付検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 ・機能・性能検査 ・特性検査 ・状態確認検査																
評価要求	評価のインプット条件等の要求事項	評価条件を満足していることを確認する。	・状態確認検査	評価のインプット条件等の要求事項	評価条件を満足していることを確認する。	・状態確認検査																	
	評価結果を設計条件とする要求事項	内容に応じて、設置要求、系統構成、機能要求として確認する。	・内容に応じて、設置要求、系統構成、機能要求の検査を適用	評価結果を設計条件とする要求事項	内容に応じて、設置要求、系統構成、機能要求として確認する。	・内容に応じて、設置要求、系統構成、機能要求の検査を適用																	
運用	運用要求	手順確認	(保安規定) 手順化されていることを確認する。	・状態確認検査	運用	運用要求	手順確認	(保安規定) 手順化されていることを確認する。	・状態確認検査														
3.6 設工認における調達管理の方法 設工認で行う調達管理は、保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき以下に示す管理を実施する。								3.6 設工認における調達管理の方法 設工認で行う調達管理は、保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき以下に示す管理を実施する。															
3.6.1 供給者の技術的評価 組織は、供給者が当社の要求事項に従って調達製品を供給する技術的な能力を有することを判断の根拠として供給者の技術的評価を実施する。								3.6.1 供給者の技術的評価 <u>組織</u> は、供給者が当社の要求事項に従って調達製品を供給する技術的な能力を有することを判断の根拠として供給者の技術的評価を実施する。															
3.6.2 供給者の選定 組織は、設工認に必要な調達を行う場合、原子力安全に及ぼす影響や供給者の実績等を考慮し、「3.2.1 設計及び工事のグレード分けの適用」に示す重要度に応じてグレード分けを行い管理する。								3.6.2 供給者の選定 <u>組織</u> は、設工認に必要な調達を行う場合、原子力安全に及ぼす影響や供給者の実績等を考慮し、「3.2.1 設計及び工事のグレード分けの適用」に示す重要度に応じてグレード分けを行い管理する。															
3.6.3 調達製品の調達管理 業務の実施に際し、原子力安全に及ぼす影響に応じて、調達管理に係るグレード分けを適用する。なお、仕様書を作成するに当たり、あらかじめ採用しようとする一般産業用工業品について、その調達の管理の方法と程度を定め、それに基づき原子炉施設の安全機能に係る機器等として使用するための技術的な評価を行う。								3.6.3 調達製品の調達管理 業務の実施に際し、原子力安全に及ぼす影響に応じて、調達管理に係るグレード分けを適用する。 <u>なお、仕様書を作成するに当たり、あらかじめ採用しようとする一般産業用工業品について、その調達の管理の方法と程度を定め、それに基づき原子炉施設の安全機能に係る機器等として使用するための技術的な評価を行う。</u>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載の充実化 (一般産業用工業品に関する調達の管理の方法と程度、技術的な評価を行う旨を追記し、記載をより適切なものにした。)</li> </ul>							

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
<p>(1) 仕様書の作成 組織は、業務の内容に応じ、保安規定品質マネジメントシステム計画に示す調達要求事項を含めた仕様書を作成し、供給者の業務実施状況を適切に管理する（「3.6.3(2) 調達製品の管理」参照）。</p> <p>組織は、一般産業用工業品を原子炉施設に使用するに当たって、当該一般産業用工業品に係る情報の入手に関する事項及び組織が供給者先で使用前事業者検査等及び自主検査等を行う際に原子力規制委員会の職員が同行して工場等の施設に立ち入る場合があることを供給者へ要求する。</p>		<p>(1) <u>仕様書</u>の作成 <u>組織</u>は、業務の内容に応じ、保安規定品質マネジメントシステム計画に示す調達要求事項を含めた<u>仕様書</u>を作成し、供給者の業務実施状況を適切に管理する（「<u>3.6.3(2) 調達製品の管理</u>」参照）。</p> <p><u>組織</u>は、一般<u>産業用工業品</u>を原子炉施設に使用するに当たって、当該一般<u>産業用工業品</u>に係る情報の入手に関する事項及び<u>組織</u>が供給者先で<u>使用前事業者検査等及び自主検査等</u>を行う際に原子力規制委員会の職員が同行して工場等の施設に立ち入る場合があることを供給者へ要求する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（使用する用語の差異）</li> <li>・表現上の差異（検査についてより詳細に記載した。）</li> </ul>
<p>(2) 調達製品の管理 組織は、仕様書で要求した製品が確実に納品されるよう調達製品が納入されるまでの間、製品に応じた必要な管理を実施する。</p>		<p>(2) 調達製品の管理 <u>組織</u>は、仕様書で要求した製品が確実に納品されるよう調達製品が納入されるまでの間、製品に応じた必要な管理を実施する。</p>	
<p>(3) 調達製品の検証 組織は、調達製品が調達要求事項を満たしていることを確実にするために調達製品の検証を行う。</p> <p>組織は、供給者先で検証を実施する場合、あらかじめ仕様書で検証の要領及び調達製品の供給者からの出荷の可否の決定の方法を明確にした上で、検証を行う。</p>		<p>(3) 調達製品の検証 <u>組織</u>は、調達製品が調達要求事項を満たしていることを確実にするために調達製品の検証を行う。</p> <p><u>組織</u>は、供給者先で検証を実施する場合、あらかじめ仕様書で検証の要領及び調達製品の<u>供給者からの出荷の可否の決定</u>の方法を明確にした上で、検証を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（より適切な表現で記載した。）</li> </ul>
<p>3.6.4 受注者品質監査 組織は、供給者の品質保証活動及び健全な安全文化を育成及び維持するための活動が適切で、かつ、確実に行われていることを確認するために、受注者品質監査を実施する。</p>		<p>3.6.4 受注者品質監査 <u>組織</u>は、供給者の品質保証活動及び健全な安全文化を育成及び維持するための活動が適切で、かつ、確実に行われていることを確認するために、<u>受注者品質監査</u>を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（使用する用語の差異）</li> </ul>
<p>3.6.5 設工認における調達管理の特例 設工認の対象となる適合性確認対象設備は、「3.6 設工認における調達管理の方法」を以下のとおり適用する。</p> <p>(1) 新規制基準施行以前に設置している適合性確認対象設備 設工認の対象となる設備のうち、新規制基準施行以前に設置している適合性確認対象設備は、設置ときに調達を完了しているため、「3.6 設工認における調達管理の方法」に基づく管理は適用しない。</p> <p>(2) 既に工事を着手し設置を完了し調達製品の検証段階の適合性確認対象設備 設工認の対象となる設備のうち、既に工事を着手し設置を完了し調達製品の検証段階の適合性確認対象設備は、「3.6.1 供給者の技術的評価」から「3.6.3(2) 調達製品の管理」まで、調達当時のグレード分けの考え方で管理を完了しているため、「3.6.3(3) 調達製品の検証」以降の管理を設工認に基づき管理する。</p> <p>(3) 既に工事を着手し工事を継続している適合性確認対象設備 設工認の対象となる設備のうち、既に工事を着手し工事を継続している適合性確認対象設備は、「3.6.1 供給者の技術的評価」から「3.6.3(1) 仕様書の作成」まで、調達当時のグレード分けの考え方で管理を完了しているため、「3.6.3(2) 調達製品の管理」以降の管理を設工認に基づき管理する。</p>		<p><u>3.6.5 設工認における調達管理の特例</u> <u>設工認の対象となる適合性確認対象設備は、「3.6 設工認における調達管理の方法」を以下のとおり適用する。</u></p> <p><u>(1) 既に工事を着手し設置を完了し調達製品の検証段階の適合性確認対象設備</u> <u>設工認の対象となる設備のうち、既に工事を着手し設置を完了し調達製品の検証段階の適合性確認対象設備は、「3.6.1 供給者の技術的評価」から「3.6.3(2) 調達製品の管理」まで、調達当時のグレード分けの考え方で管理を完了しているため、「3.6.3(3) 調達製品の検証」以降の管理を設工認に基づき管理する。</u></p> <p><u>(2) 既に工事を着手し工事を継続している適合性確認対象設備</u> <u>設工認の対象となる設備のうち、既に工事を着手し工事を継続している適合性確認対象設備は、「3.6.1 供給者の技術的評価」から「3.6.3(1) 仕様書の作成」まで、調達当時のグレード分けの考え方で管理を完了しているため、「3.6.3(2) 調達製品の管理」以降の管理を設工認に基づき管理する。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の差異（調達管理の特例記載について、説明書だけでなく本文側にも記載した。）</li> </ul>

先行審査プラントの記載との比較表（設計及び工事に係る品質マネジメントシステム）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【2020年10月14日認可済】	大飯発電所第3号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 【今回申請】	大飯発電所第3号機との比較
<p>3.7 記録, 識別管理, トレーサビリティ</p> <p>3.7.1 文書及び記録の管理</p> <p>(1) 適合性確認対象設備の設計, 工事及び検査に係る文書及び記録</p> <p>組織は, 設計, 工事及び検査に係る文書及び記録を, 保安規定品質マネジメントシステム計画に示す規定文書に基づき作成し, これらを適切に管理する。</p>		<p>3.7 記録, 識別管理, トレーサビリティ</p> <p>3.7.1 文書及び記録の管理</p> <p>(1) 適合性確認対象設備の設計, 工事及び検査に係る文書及び記録</p> <p><u>組織</u>は, 設計, 工事及び検査に係る文書及び記録を, 保安規定品質マネジメントシステム計画に示す規定文書に基づき作成し, これらを適切に管理する。</p>	
<p>(2) 供給者が所有する当社の管理下でない設計図書を設計, 工事及び検査に用いる場合の管理</p> <p>設工認において供給者が所有する当社の管理下でない設計図書を設計, 工事及び検査に用いる場合, 供給者の品質保証能力の確認, かつ, 対象設備での使用が可能な場合において, 適用可能な設計図書として扱う。</p>		<p>(2) 供給者が所有する当社の管理下でない設計図書を設計, 工事及び検査に用いる場合の管理</p> <p>設工認において供給者が所有する当社の管理下でない設計図書を設計, 工事及び検査に用いる場合, 供給者の品質保証能力の確認, かつ, 対象設備での使用が可能な場合において, 適用可能な<u>設計</u>図書として扱う。</p>	<p>・表現上の差異 (より具体的な表現で記載した。)</p>
<p>(3) 使用前事業者検査に用いる文書及び記録</p> <p>使用前事業者検査として, 記録確認検査を実施する場合に用いる記録は, 上記(1), (2)を用いて実施する。</p>		<p>(3) 使用前事業者検査に用いる文書及び記録</p> <p>使用前事業者検査として, 記録確認検査を実施する場合に用いる記録は, 上記(1), (2)を用いて実施する。</p>	
<p>3.7.2 識別管理及びトレーサビリティ</p> <p>(1) 計測器の管理</p> <p>組織は, 保安規定品質マネジメントシステム計画に従い, 設計及び工事, 検査で使用する計測器について, 校正・検証及び識別等の管理を実施する。</p>		<p>3.7.2 識別管理及びトレーサビリティ</p> <p>(1) <u>計測器</u>の管理</p> <p><u>組織</u>は, 保安規定品質マネジメントシステム計画に従い, 設計及び工事, 検査で使用する<u>計測器</u>について, 校正・検証及び識別等の管理を実施する。</p>	<p>・表現上の差異 (使用する用語の差異)</p>
<p>(2) 機器, 弁, 配管等の管理</p> <p>組織は, 保安規定品質マネジメントシステム計画に従い, 機器, 弁及び配管類について, 刻印, タグ, 銘板, 台帳, 塗装表示等にて管理する。</p>		<p>(2) 機器, 弁, <u>配管</u>等の管理</p> <p><u>組織</u>は, 保安規定品質マネジメントシステム計画に従い, <u>機器</u>, 弁及び配管類について, <u>刻印, タグ, 銘板, 台帳, 塗装表示等にて</u>管理する。</p>	<p>・記載の充実化 (管理方法について具体的な事例を記載した。)</p>
<p>3.8 不適合管理</p> <p>設工認に基づく設計, 工事及び検査において発生した不適合については保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき処置を行う。</p>		<p>3.8 不適合管理</p> <p>設工認に基づく設計, 工事及び検査において発生した不適合については保安規定品質マネジメントシステム計画に基づき処置を行う。</p>	
<p>4. 適合性確認対象設備の施設管理</p> <p>適合性確認対象設備の工事は, 保安規定に規定する施設管理に基づき業務を実施する。</p>		<p>4. 適合性確認対象設備の施設管理</p> <p>適合性確認対象設備の工事は, 保安規定に規定する施設管理に基づき業務を実施する。</p>	

青字：柏崎刈羽原子力発電所第7号機と大飯発電所第3号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は, 当社の機密事項に属するため, 又は他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。